

## 子ども向けパンフレット制作から始まった学校教育との連携

高橋 真史

### 1 はじめに

2021（令和3）年に、沖縄県公文書館から小中学生向けの文書館パンフレットを制作したと現物が届いた<sup>(1)</sup>。読んでみると、沖縄県公文書館がどんな資料を収蔵していて、何のために沖縄公文書館はあるのか、イラスト付きで分かりやすく解説されていた。子どもたちはもちろん、文書館に携わったことのない大人たちにも理解できそうな内容だった。

安曇野市文書館では一般向けのパンフレットを配布している。しかし、沖縄県公文書館の子ども向けパンフレットのようなものがあれば、大人はもちろん子どもたちにとっても親近感が湧き、利用しやすい施設になるのではないかと、子ども向けパンフレットを制作して、子どもたちにパンフレットを手にとってもらい、調査学習などで利用してもらったらどうかと考えた。

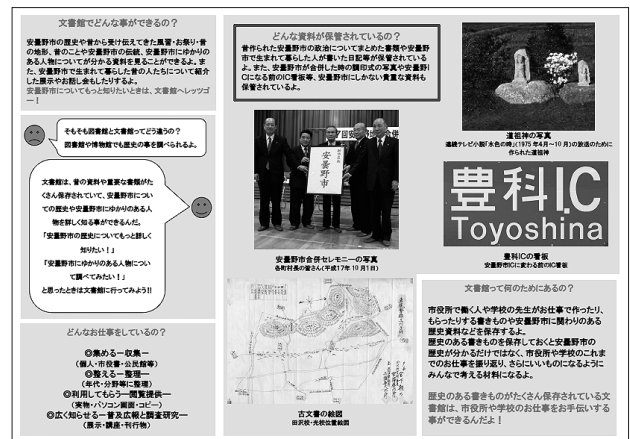
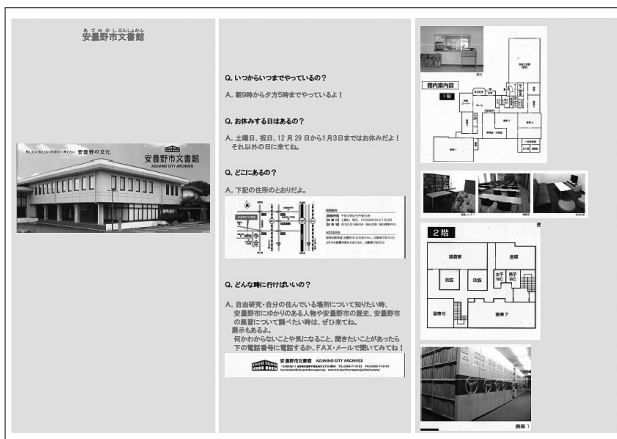
筆者自身も、文書館に異動する前までは資料保存が大切だという意識を持っておらず、文書館の存在すらも知らなかった。まだ分からないことは多いが、資料保存や文書館の存在の大切さを学んでいる。文書館に関わりがない人たちの中にもその存在すら知らない人も大勢いることだろう。

そこで、年齢関係なく色々な人たちに文書館の大切さを知ってほしいと考え、子ども向けパンフレットの制作を始めた。本稿では、子ども向けパンフレットの制作から完成まで、そして学校教育と連携して取り組んだ当館の教育普及活動について報告する。

### 2 子ども向けパンフレット作成第1弾

まずは、沖縄県公文書館のパンフレットを参考にしながら、子ども向けパンフレット第1弾を試作した。そこでは、一般向けパンフレットと同じように施設内の写真や館内案内図を掲載していた。その他に、道祖神や安曇野市合併セレモニー、田沢校・光校位置絵図、豊科I.Cの看板の写真を載せた。

下記の「パンフレットレイアウト第1弾」の画像と完成したパンフレット（27頁参照）を比べると、文字が多く写真も少ないことが分かる。



子ども向けパンフレットレイアウト第1弾

パンフレットレイアウト作成後、文書館職員による校正で以下のような意見が寄せられた。

**【パンフレット校正時に出された意見】**

- ・しっかりと活用できるものにするならば、実際に生徒を受け入れて、見学の場で配るものを想定してほしい。
- ・文書館は10年前、20年前の事も正確にわかることができる、地域が歩んできたことの証明書を発行しているような存在で大切だということをかみ砕いた言葉で伝えることができたらと思う。
- ・文書館は、図書館や博物館と違ってこういうものがあると何かひっかかるようなパンフレットにしてほしい。
- ・対象や使用方法など具体的な方法性をつける必要がある。
- ・文書を保存することの大切さは、大人になってから教えても良いと思う。
- ・昔の古いものが文書館にあることをアピールすれば良い。
- ・パンフレットを作っても子どもたちが来館してくれるとは限らない。しかし、学校の先生たちや大人の人の意識を変えるのは良いと思う。
- ・社会科の先生でも文書館の存在を知らない人は大勢いると思う。パンフレットを学校に持ち込めば、先生たちは文書館を理解してくれると思うし、先生たちを通して子どもたちに説明することは先生たちがそれを学習することになるので、そういった方法としてパンフレットは利用価値がある。
- ・子どもたちにパンフレットのレイアウトを見せてあげて、反応を見ながら制作を進めても良いと思う。パンフレットを改善するために、学校向けに出前講座など行ってみたいはどうか。

下線の通り、パンフレットの改善のために学校へ出前講座に赴いてはどうかという意見があった。それを受けて、パンフレット作成の一環として学校連携を図ることとした。

### 3 高等学校学習指導要領

2022年度に「高等学校学習指導要領」が改定され、「公文書館の活用」が初めて明記された。「高等学校学習指導要領解説」に記載されている「日本史探求」「歴史総合」には、博物館や図書館、公文書館等、いわゆる資料保存利用機関との連携について、以下の通り記述されている<sup>(2)</sup>。

**【資料の保存・保全への理解】**

博物館、図書館、公文書館や資料館等の果たす役割やそこに展示・保存されている資料、地域の遺跡、景観や無形文化財などが、これまでどのように受け継がれてきたかなどの視点に着目し、「歴史資料や遺構の保存・保全などの努力が図られていることに気付く」ことなどを通して、文化財保護への関心を高め、地域の文化遺産を尊重する態度を養うことも重要である。

**【デジタル化された資料の活用】**

博物館、図書館、公文書館などでは、その収蔵品をはじめ、文化資源をデジタル化して保存を行うとともに、公開や利用を積極的に行う取組が進んでいる。これらの「デジタル化された資料」は、インターネットを利用することで、利用の可能性を拡大している。多様な歴史資料にアクセスする

ことで、一層の具体性をもった学習が可能となる。また資料の目録情報に加え、様々な歴史情報のデータベースが整備されてきており、それらの情報を活用し、指導計画上に適切に位置付けることが考えられる。

**【社会教育、生涯教育（博物館、公文書館等の役割と連携）】**

地域の文化遺産、博物館や公文書館、その他の資料館の調査・見学などを取り入れることで、実物や複製品などの資料と接して具体的に多様な情報を得て歴史の考察を深めることができる。公文書館は国及び地方公共団体が保管する歴史資料として重要な公文書や古文書などの記録を保存し、閲覧や展示など広く国民・住民に提供する施設である。また、図書館などを活用して地域の歴史に関わる書籍や資料の閲覧・調査や、レファレンス機能の利用など、歴史の学習を抽象的な概念の操作で終わらせずに一層の具体性をもって実体化していくことや、学校の授業のみで終わらせずに空間的には教室の外へ、時間的には卒業後まで継続させ、将来にわたって学び続ける機会や方法についての認識や姿勢を育み、生涯学習へと発展させていくことが大切である。

このように、資料保存利用機関である公文書館と学校教育との連携を通して、資料の保存・保全等の重要性を子どもたちに伝え、地域の文化遺産を尊重する大切さを養うことが強調されている。

また、2022年度の全国公文書館長会では、共通テーマとして取り上げられる等、児童・生徒の利用の拡大に向けた取り組みとして、学校機関との連携を図ることが求められた。学校連携の取り組みは今日的な課題でもある。

**4 学校連携に向けての事前調査**

安曇野市文書館では、地域に特化した歴史的資料を収蔵しており、それらが学習用の教材として活用できるのではないかと考えた。当初は小中学生を対象にと考えたが、文書館の利用は児童だけでは難しいのではないかと、例えば、来館しても難しい文字などは読めないのではないかと意見が出た。それを踏まえて、対象年齢を中学生以上に設定した。

現在、市内中学校では「総合的な学習の時間」、高等学校では「総合的な探究の時間」を設け、その時間を使って地域学習活動が進められている。そこで、中学校の「総合的な学習の時間」を通して、学校との連携ができないか、学習内容の事前調査を行った。

下記は、2021年度の「総合的な学習の時間」の学習内容である。

学校名	学年	「総合的な学習の時間」の学習内容
豊科北中学校	1年	安曇野市の特徴や安曇野市について知る
	2年	実際に働くことの意義や大変さについて
	3年	学校全体で3年間を通して学んだ事を今後の生活に活かす
豊科南中学校	1年	「地域の魅力・課題」「福祉とは」
	2年	「地域との関わり」「地域の自然」
	3年	「地域への貢献」「社会福祉」
穂高東中学校	1年	「ふるさと穂高を知る」
	2年	「ふるさと穂高で働く」
	3年	「ふるさと穂高に貢献する」

穂高西中学校	1年	地域の動植物、山、人々の暮らしから生まれ育ったまちを知ろう
	2年	地域の特産や産業から自分の将来と職業を考えよう
	3年	地域の人・文化・伝統から自分を見つめなおそう
三郷中学校	1年	「地域を知る」
	2年	「地域で働く」
	3年	「地域に発信・貢献する」
堀金中学校	1年	職業調べ
	2年	職場体験学習、進路学習
	3年	修学旅行学習（日本の歴史、文化に触れる学習）、進路学習
明科中学校	1年	キャンプの学習、職業調べ
	2年	登山学習、職場体験学習
	3年	進路学習、ボランティア活動

以上の学習内容から、地域に関わる館蔵資料を活用して、それぞれの学習内容に沿った連携が可能であると判断した。

地域学習を計画する段階で文書館の役割や特徴を生徒や教職員に知ってもらい、文書館の活用を学習の選択肢に加えてもらいたいと考え、出前講座を行うことにした。

## 5 市内中学校での出前講座

今まで学校連携といえば、博物館や図書館が積極的に取り組むものという考えが主流であった。文書館は連携の対象として学校から認知されてこなかったため、出前講座を行う前に学校に文書館について知ってもらう必要があった。そこで校長先生や教頭先生を通して、教職員に文書館について説明し、知ってもらいたいと考えた。

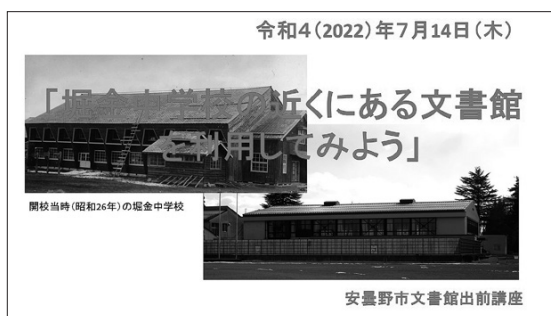
2022年1月に市内小中学校の教頭会に出席した。文書館と学校の連携について検討をお願いし、協力に応じていただいた学校へ出前講座を計画した。

初めて試みる出前講座にあたり、次頁のようなスライドを用意して、文書館の利用ガイダンスを実施した。また、事前に中学校各学年の探究課題を調べ、それぞれのテーマに沿ったプレゼンテーションを行った。

### 【2022年度中学生向け出前講座の流れと内容】

#### ①スライドを用いた文書館の紹介

文書館とはどんな施設なのか、文書館に保管している資料を紹介する。



中学生向け出前講座に使用したスライドの一部

## ②対話形式による説明

生徒の皆さんにより分かりやすく伝わるように、職員が生徒役となって文書館長にいくつか質問する。

Q1. 文書館は、豊科郷土博物館や図書館とどう違うか。

Q2. 文書館で開催するイベントの具体的な内容について教えてほしい。

Q3. 学校の授業の中、リモートで資料等を相談することはできるか。

## ③各学校の探究課題とプレゼンの内容

○安曇野市立堀金中学校2年生（4月27日実施）

探究課題テーマ：「キャリア教育」

・「平成1年堀金村会議録」

○安曇野市立堀金中学校3年生（5月16日実施）

探究課題テーマ：「地域課題」

・安曇野の災害について

○安曇野市立堀金中学校1年生（7月14日実施）

探究課題テーマ：「学有林、SDG s」

・安曇野市平和都市宣言



堀金中学校2年生 出前講座の様子

講座の後、受講生徒の皆さんにアンケートをお願いし、中学生視点で講座や文書館の運営について意見や要望をいただいた。

### 【2022年度中学生向け出前講座の感想】

○安曇野市立堀金中学校2年生（4月27日実施）

- ・安曇野市の地形の変化や安曇野市の合併の経緯が知りたい。
- ・安曇野市の昔の出来事や祖父母・父母の子どもの頃の出来事を知りたい。
- ・実際に文書館を利用した事はないが、古い資料がたくさんあると聞いて是非利用したいと思った。
- ・歴史は難しい言葉がたくさん使われているため、若者でも理解を深められるような工夫をすれば利用者も増えると思う。

○安曇野市立堀金中学校3年生（5月16日実施）

- ・安曇野市の災害、歴史、人口の推移について調べてみたい。
- ・特定外来種や絶滅危惧種、安曇野市の農作物について知りたい。
- ・堀金の歴史に興味があるので、学校での学習だけではなく個人で調べたい時も利用したい。
- ・直接文書館に行くのも面倒なので、資料をインターネットに上げてほしい。

○安曇野市立堀金中学校1年生（7月14日実施）

- ・文書館の存在は知っていたが、どんな施設なのか知らなかった。
- ・資料が破損してしまった場合、どうなるのか。
- ・面白かったので、今後も出前講座を続けてほしい。
- ・夏休みに安曇野や学校の資料を見に行きたい。

アンケートでは、難しい言葉を分かりやすくしてほしいという声もあり、中学生に文書館の大切さが伝わるような講座にするために試行錯誤しながら進めてきた。

現在、全国の教育現場では、子どもたち1人1人がインターネットや情報端末を学習に活用できる環境を整える「GIGAスクール構想」が進められている。「GIGAスクール構想」の「GIGA」は、「Global and Innovation Gateway for All」(全ての人にグローバルで革新的な入り口を)の略で、「小中学生1人1台端末」「高速大容量の通信ネットワーク環境(教室にWi-Fi環境を整備)」を学校に整備することで、ICT(情報通信技術)を学びに活かしていくための取り組みである。市内でも、2021年度に小中学校17校の整備が行われ、生徒1人1台のタブレット端末が導入された。そのため、インターネット利用による資料提示についての意見もいただき、文書館のデジタル化や運営方法について見直す良い機会にもなった。

## 6 市内高等学校での出前講座

すでに述べたように、高等学校新学習指導要領の「歴史総合」「日本史探求」には「公文書館の活用」が明記されている。

そこで、文書館では中学校の他に高等学校との連携を検討し、長野県豊科高等学校に出前講座の実施を打診した。同校ではすでに、1学年の地域探究学習「総合的な探究の時間」の中で、安曇野市地域づくり課による出前講座が行われており、その一環として参加させていただくことになった。

講座では、2023(令和5)年度に開校100周年を迎える豊科高校の歴史と、地域の出来事について話した。

### 【2022年度高校生向け出前講座の内容】

長野県豊科高等学校1年生(9月1日実施)

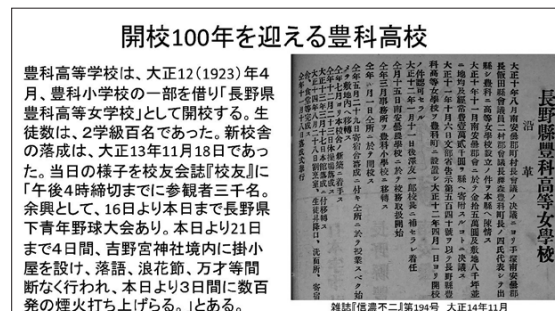
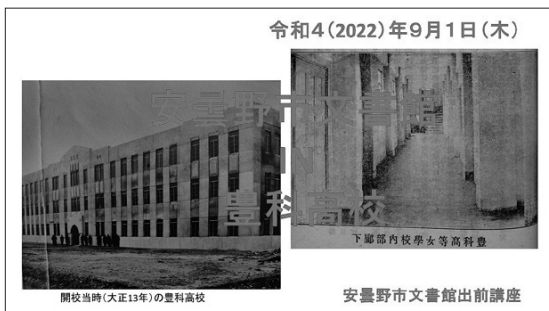
探究課題テーマ:「地域で関心のあるもの」

#### ○出前講座の流れと内容

- ①文書館について 文書館とはどんな施設なのか
- ②2023(令和5)年度に100周年を迎える豊科高校に関連する資料
  - ・開校から共学制自然消滅までの豊科高校の歴史
  - ・戦時中の豊科高校

#### ③安曇野市のトピック的な歴史資料

合併協議会幹事会における「安曇野」のルビについての検討



高校生向け出前講座に使用したスライドの一部

**【出前講座の感想】**

- ・戦時中の出来事や豊科高等学校の歴史についてもっと知りたい。
- ・どんな人々がこの地域に関わってきたのか知りたい。

また、講座を受講した生徒の皆さんに文書館について知っているか、アンケートを行った。

**【アンケート回答結果】（受講生徒人数：33人）**

○文書館について

- ①文書館について聞いた事もなかった。（24人）
- ②名前は知っていたが、どのような施設なのか知らなかった。（8人）
- ③地域の歴史的な資料を収蔵している施設であることは知っていた。（1人）

講座実施後の評価では、67.8%の生徒が文書館について分かったと回答している。教職員の方々からも「これから探究学習を進めていく中で文書館を利用させてもらいたい」という言葉をかけていただいた。

## 7 子ども向け文書館パンフレット完成

出前講座を行う中で、次のような意見をいただき、パンフレット制作に反映させた。

**【パンフレット制作にあたって反映させた意見】**

- ・歴史は難しい言葉がたくさん使われているため、若者でも理解を深められるような工夫をしてほしい。（出前講座感想より引用 24頁）
- ・写真はたくさんあった方が分かりやすい。
- ・どんな資料があるのか、もっと知りたい。

これを受けて、パンフレットレイアウト第1弾から文字数を減らし、案内図や館内写真を削除した。また、子どもたちに興味を持ってもらえるように、子どもたちに関係するような資料、学校資料や広報、航空写真などを掲載した。さらに安曇野市らしさを意識して、市内の5つの地区それぞれに関する資料全てを取り入れた。

パンフレットの対象年齢を中学生に設定し、Q&A形式の吹き出しを入れたり、学校資料を紹介したりするなど、文書館を身近に感じられるように工夫した。

子ども向けパンフレットは文書館だけではなく、市内の学校にも配布し、子どもたちが利用する機会が多い図書館や交流学習センター等にも設置している。



子ども向け文書館パンフレット（表）



子ども向け文書館パンフレット（裏）

## 8 教職員向け研修

文書館では出前講座の他に、小中学校の教職員向けの研修も実施している。

研修の受講対象者は、小中学校の初任者と教頭先生である。この研修は、学校資料が文書館へ移管された2019（令和元）年から継続して行っている。

### 【教職員向け研修実施実績】

#### ○安曇野市小中学校初任者研修

- ・ 2019（令和元）年 8月7日 参加教職員人数：27名  
提供資料→職員会誌、航空写真
- ・ 2021（令和3）年 7月28日 参加教職員人数：16名  
提供資料→学校日誌
- ・ 2022（令和4）年 7月27日 参加教職員人数：26名  
提供資料→職員会誌、学校運営概要

※2020（令和2）年度の研修は、新型コロナウイルス感染症対策の為、中止とした。

### 【参加新任教職員による感想】

- ・ 過去と現在という縦の時間軸の中で比較する事で、共通点・相違点を考え、これからの教育について考える事ができた。
- ・ 人権関係の事柄で、今では考えられないような事が職員会綴に書かれてあり、世間の認識が変わってきた歴史を感じられた。

#### ○教頭研修会

- ・ 2021（令和3）年10月21日 参加教職員人数：17名  
提供資料→学校日誌
- ・ 2022（令和4）年10月20日 参加教職員人数：18名  
提供資料→児童・生徒作文



安曇野市文書館の特色の一つに、学校資料の収蔵がある<sup>(4)</sup>。文書の作成から20年経過した資料を評価選別し、受け入れている。教職員の授業づくりに役立ててもらうため、これらの資料を利用した研修も行っている。

## 9 終わりに

堀金中学校で出前講座を実施したおよそ2カ月後、同校の1学年の生徒3名が資料調査のため来館した。

### 【来館してみたの感想】

- ・堀金中学校の学有林の資料を見せてもらった。この資料で常念祭を盛り上げたい。
- ・安曇野市の歴史について調べたい事ができたら、また文書館を利用したい。

出前講座やパンフレットの効果により、中学生に文書館に興味を持ってもらうことができた。文書館も、子どもたちが調べ学習に利用する施設の一つに入れてもらうことができたのではないかと思う。今後とも、子どもたちに文書館の果たす役割や保管されている資料の大切さを伝えていきたい。

安曇野市文書館では、パンフレット制作の一環として2022年度から市内中学校・高等学校の出前講座や市内小中学校教職員研修の実施などの教育普及活動を始めた。

パンフレットは完成したが、子どもたちや教職員に文書館の存在を知ってもらうには学校との連携が必要である。しかし、まだ市内の学校で2校しか連携できていない。今後もアピールしていき、子どもたちや教職員に学習における文書館の活用を視野に入れてもらえるようにしたい。

また、2022年8月9日に行われた安曇野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価に関する会議にて、次の意見をいただいた。

### 【安曇野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価に関する会議にていただいた意見】

- ・中学生向けパンフレットなら、一般向けの人にも分かりやすい内容となるであろう。
- ・ぜひ学校だけでなく、一般の人にも手に取れるように設置してほしい。

子どもたちだけでなく、一般の人でも使用する市内の図書館や交流学習センターには既に設置している。今後必要に応じて、中高校生向けの講座だけでなく、子ども向けパンフレットを使用した一般向けの講座も検討したい。

その他に今後の課題として、「安曇野市文書館のデジタル化」について挙げたい。学校では、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業、インターネット利用による講座・講演会を行うなど、デジタル化が進んでいる。出前講座では、安曇野市文書館でオンラインによる講座やインターネット利用による資料提示はできないかという声があった。しかし、市文書館はオンラインやインターネットに対応しておらず、講座や講演会の受講や、資料を提示するには相手に来館していただく必要がある。

学校に限らず、これからの時代のデジタル化の流れに伴い、オンラインによる講座や講演会、資料の提示は必要になってくると思われる。資料のオンライン化、インターネット利用によるカンファレンスや教育普及活動を目指していく必要があると考える。

今回の学校連携にあたり、市教頭会、堀金中学校、豊科高等学校など多くの皆様にご協力いただいた。末筆ながら、心より感謝を申し上げます。

註

- 1 沖縄県公文書館「一児童・生徒のための沖縄県公文書館ガイドーみんなの公文書館 どんなところ？  
何ができるの？（2021年3月26日初版第1刷）」
- 2 文部科学省ホームページ<[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1407074.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm)> 2022  
年12月7日アクセス
- 3 「広報あづみのNo.327（2021年1月20日発行）」4～5頁
- 4 青木弥保「安曇野市における学校資料の移管について」（『安曇野市文書館紀要』第3号（2022年））